

〈解答〉

- ① 1 名称：日英同盟 記号：イ
- 2 ①：政党 ②：軍人（両解）
- 3 〔例〕石油危機がおきて原油を輸入するときの価格が上がったこと
- 4 イ→ウ→ア（完答）

配点 各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 三国協商（イギリス、フランス、ロシア）は、三国同盟（ドイツ、オーストリア、イタリア）に対抗して、ドイツを包囲するように結成された。1914年6月、オーストリアの皇太子夫妻が、サラエボでセルビアの青年に暗殺される事件がおこり、オーストリアがセルビアに宣戦すると、8月、ドイツはオーストリアに、イギリス・フランス・ロシアはセルビアについて参戦し、同盟国側と協商国（連合国）側との間で第一次世界大戦が始まった。さらに日本が、日英同盟を理由に連合国側に加わり、トルコが同盟国側に加わったため、戦場は地中海地域からアジアにまで拡大した。
- 2 五・一五事件によって、1924年から8年間続いた政党内閣は終わり、犬養首相のあとは海軍出身の斎藤実など、軍人が首相になることが多くなった。
- 3 1973年に、世界最大の石油の産地である中東でおこった戦争の影響を受けて、石油の価格が上がった。石油を主なエネルギー資源としていた日本などの先進国は、大きな打撃を受けた。世界的な不況になり、日本の高度経済成長は終わりを告げた。国内では、売り惜しみや買い占めのために物価が上がった。
- 4 イは1956年、ウは1972年、アは1978年のできごとである。